株式情報 (2020年3月31日現在)

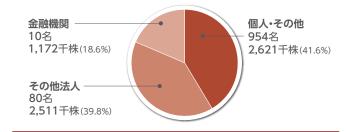
■ 株式の状況 ■

	行	-			-				25,224,000株
発	行	済	栈	ŧ 5	t	の	総	数	6,306,000株
株		主		の		総		数	1,044名

■ 株主メモ ■

事	業	年	度	4月1日~翌年3月31日
期末	配当金受命	頁株主確	定日	3月31日
中間	配当金受命	頁株主確	定日	9月30日
定	時株	主 総	会	毎年6月
:: -	È 名 簿 □座の□			三菱UFJ信託銀行株式会社
同	連	絡	先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel 0120—232—711 (通話料無料)
公	告 の	方	法	電子公告により行います。 ただし、やむを得ない事由により、 電子公告によることができない場合 は、日本経済新聞に掲載する方法に より行います。

■ 普通株式所有者別状況 ■



〈ご注意〉

- 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきまし ては、原則、□座を開設されている□座管理機関(証券会社 等)で承ることとなっております。□座を開設されている証券会 社等にお問合せください。
- 株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませ んのでご注意ください。
- 2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきまし ては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますの で、上記特別□座の□座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお 問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店におい てもお取次ぎいたします。
- 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で お支いいたします。

より詳細な情報は弊社WEBサイトをご覧ください。

ヤマウ



http://www.yamau.co.jp/













地球環境を考え、 植物油インキを 使用しています。地球環境を考え、 植物油インキを 使用しています。見やすく読みまちがえにく いユニバーサルデザインフ ォントを採用しています。



株主の皆様へ



株主の皆様には格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

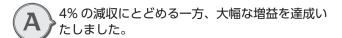
新型コロナウイルス感染症に罹患された方ならびにご家族・関係者の皆様に、 謹んでお見舞い申し上げます。

中期経営計画の2年目となる第63期は、公共投資漸減傾向の中、全体的なコスト削減が奏功し、当初の利益計画を上回ることができました。最終年度となる第64期も新型コロナウイルス感染拡大の影響等も予想され、予断を許さない状況が続きますが、引き続きコア事業の進化と周辺事業によるソリューション強化に取組み、利益の創出に努めて参りますので、皆様のご支援ご鞭撻の程お願い申し上げます。

2020年6月

代表取締役社長 小嶺 啓藏

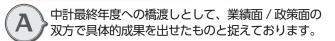
当期の市場環境、決算のポイント等について 教えてください。



当社グループの主要市場である九州経済は、国が進める防災・減災、国土強靭化のための予算が配分される一方で、中長期的には公共投資の縮減により漸減していくことが想定されます。また今年に入ってからは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い経済活動が停滞するなど、予断を許さない状況が続いております。

このような経営環境の下、当社グループでは2年目を迎えた「中期経営計画」に基づき、継続的な事業成長を目標に、技術・開発力の向上や、生産性及び収益性の向上を目指して参りました。その結果、当期の主な連結業績は、売上高230億89百万円(前期比4.1%減)、営業利益11億42百万円(同33.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益7億32百万円(同46.2%増)となりました。

当期は中期経営計画の2年目でしたが、どのように分析・評価されますか?



中計 2 年目となる当期では、道路・インフラ整備事業や 災害復旧工事などに注力した結果、売上高はほぼ計画通りの 推移となりました。利益面では、原価及び一般管理費の削減 策が奏功し、各利益段階で当初計画を大きく上回ることがで きました。中計最終年度への重要な橋渡し役となる当期にお いて、このような具体的成果をしっかりと出せたことは、全 社員一丸となった賜物並びに事業戦略の妥当性の証しとし て、大きな手応えを感じております。

また当期におきましては、事業分野及び事業エリアで補完的な位置付けにある(株)ヤマックスとの業務提携、西日本地区を中心に橋梁・高架道路用伸縮装置の製造/販売/設置を行う中外道路(株)のグループ会社化など、コア事業の一層の強化を進めることができました。『小さくても強い会社』の実現に向け、当社はこれからも着実に前進して参ります。

中期経営計画の概要

1 経営理念

◇ ヤマウフィロソフィ

社 是[ヤマウの目的・存在理由]

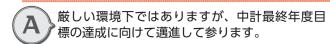
わが社は、事業活動を通じて社会に貢献することを使命とし、 顧客の満足度を高め、会社の発展と社員の幸福を実現する。

◇ 当社グループの社会的使命 (ソリューションミッション) インフラ整備にかかわるトータルソリューションサービスで、 安心・安全なまちづくりに貢献する。

Ⅲ 基本方針 『小さくても強い会社』を実現する。

当社グループの社会的使命実現のため、2018年度からの3年間は、成長ステージの基盤作りの3年間ととらえ、経営資源の再配分、社員個々の能力向上並びに一致団結して事に当たる強いチームワークにより、生産性や技術力の向上を図り、効率的で利益の出る会社を目指す。

① 次期(2021年3月期)の見通しについてはいかがですか?



今後の国内経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、生産活動の停滞等極めて厳しい状況で推移するものと予想されます。当社グループの主要市場である九州圏内の建設市場においても工事の縮減、延期も予見されるなど楽観できない状況にあります。

このような状況の中、当社グループは、2018年4月から2021年3月を実行期間とする「中期経営計画」に基づき、技術・開発力の向上、受注力・コスト競争力の追求等によるコア事業の進化を図るとともに、周辺事業によるソリューション強化に取り組み、利益の創出に努めて参ります。

これら諸施策により連結業績につきましては、売上高250億円(当期比8.3%増)、営業利益9億60百万円(同15.9%減)、親会社株主に帰属する当期純利益5億40百万円(同26.2%減)を見込んでおります。

Ⅲ 数値目標

【 2021年3月期の目標 】

連紀	目標	個別	目標
売上高	250 億円	売上高	158 億円
経常利益	9 億円		
R O A	2.5 %	経常利益	4.7 億円
R O E	11.5 %	在吊利量	4./ 息白

₩ 株主還元方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要政策と位置付け、安定配当の継続を基本方針としております。2021年3月期には、配当性向30%以上を目指します。

配当状況など、株主の皆様へのメッセージを お願いします。



日頃のご支援に感謝し、普通配当 11 円に加えて特別配当 2 円を実施させていただきました。

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策として位置付け、安定配当の継続を基本方針とする一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえての財務体質の強化、また今後の成長投資のための内部留保の充実についても経営の重要政策として位置付けております。

当方針に基づきつつ、当期は連結業績が好調に推移し増益を達成したことから、株主の皆様の日頃よりのご支援に感謝すべく、1 株当たり 2 円の特別配当を実施することといたしました。普通配当は、実質増配とした昨年度と同額の 1 株当たり 11 円とさせていただきますので、当期の 1 株当たりの配当金は合計 13 円となります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援 の程、何卒よろしくお願い申し上げます。





建合件分配主

連 結貸借対照表	•••••	・・・・・・(単位:百万円)
科 目	当連結会計年度 2020年3月31日現在	前連結会計年度 2019年3月31日現在
資産の部		
流動資産	13,873	13,326
固定資産	7,675	5,507
有形固定資産	4,854	4,441
無形固定資産	1,422	118
投資その他の資産	1,399	947
資 産 合 計	21,548	18,834
負債の部		
流動負債	12,184	11,450
固定負債	3,601	2,193
負 債 合 計	15,786	13,643
純資産の部		
株主資本	5,540	4,873
資本金	800	800
資本剰余金	755	755
利益剰余金	3,987	3,320
自己株式	△2	△2
その他の包括利益累計額	143	242
その他有価証券評価差額金	95	128
退職給付に係る調整累計額	47	114
非支配株主持分	78	74
純 資 産 合 計	5,762	5,190
負債純資産合計	21,548	18,834

科目	当連結会計年度 2019年4月 1日から 2020年3月31日まで	前連結会計年度 2018年4月 1日から 2019年3月31日まで
売上高	23,089	24,068
売上原価	17,339	18,501
売上総利益	5,749	5,567
販売費及び一般管理費	4,607	4,711
営業利益	1,142	855
営業外収益	139	188
営業外費用	108	70
経常利益	1,173	973
特別利益	84	27
特別損失	45	160
税金等調整前当期純利益	1,212	840
法人税、住民税及び事業税	475	300
法人税等調整額	△5	23
当期純利益	742	517
非支配株主に帰属する当期純利益	10	15
親会社株主に帰属する当期純利益	732	501

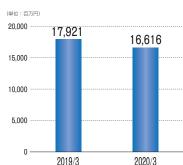
連結キャッシュ・フロー計算書 ······(単位: 百万円)

科		当連結会計年度 2019年4月 1日から 2020年3月31日まで	前連結会計年度 2018年4月 1日から 2019年3月31日まで
営業活動による キャッシュ	・フロー	1,154	1,277
投資活動による キャッシニ	・フロー	△1,986	△425
財務活動による キャッシニ	・フロー	1,684	△798
現金及び現金同 増減額 (4		852	53
現金及び現金同	等物の 期首残高	2,571	2,518
現金及び現金同	等物の 期末残高	3,424	2,571

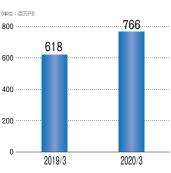
セ グ | メ | ン | ト | 別 | 営 | 業 | の | 状 | 況

■ コンクリート製品製造・販売事業 ■





セグメント利益



コンクリート製品製造・販売事業の売上は、土木製品、景観製品、レジンコンクリート製品の販売によるものであります。 当連結会計年度においては、主要市場である九州圏内の建設市場において、中・長期的には公共投資の縮小により漸減する 方向であることに加え、公共投資が耐震、長寿命化、老朽化対策などの既存インフラの維持管理や防災・減災対策へシフトレ ていくなか、平成28年熊本地震や平成29年7月九州北部豪雨などの復旧・復興丁事への対応や、製造原価及び一般管理費 の削減に取り組んで参りました。

その結果、当連結会計年度においては、コンクリート製品製造・販売事業の売上高は、166億16万円(前年同期比7.3%減)、 セグメント利益(営業利益)は7億66万円(前年同期比24.0%増)となりました。

コンクリート製品のご紹介

■ 土木製品 ■

災害復旧、インフラ老朽化対策等の 多種多様な要望に対応できる製品を開 発・提案し、国策である防災・減災、 国土強靭化に貢献して参ります。





プレテン桁

■ プレストレスト製品 ■

老朽化の著しい橋梁の更新事業に取り 組むため、JIS A5373 (プレキャストプ レストレストコンクリート製品)を取得 しました。スラブ橋桁、プレキャストPC 床版の製造を通じて、新たな社会インフ ラ整備に貢献して参ります。

耐摩耗性、耐薬品性、耐水性など に優れ、美観とともに強度や耐久性 の両面が必要とされる環境条件に最

■ レジンコンクリート製品 ■

■ 景観製品 ■ 多彩な表情を持つヤマウの景観

製品は自然環境に広がりと奥行き

を与え、開放感やスケール感を損

なうことなく美しい景観を演出し

ます。

適な製品です。

ヤマウのコンクリート製品

現場打ちのプレキャスト製品化

当社は、環境問題への関心の高まりや熟練工不足による省人化問題の解決に向 け、「現場打ちのプレキャスト製品化」を提案し施工現場の作業改善や工期短縮に 貢献しています。

工場製作のメリット

■品質安定

工場で徹底管理の下に製造された出来高誤差が少なく安定した高品質を実現

■工期短縮

現地製作と比較して大幅な工期短縮が可能

■トータルコスト低減

共通仮設費や現場管理費を抑えることができ、従来工法と遜色ないトータルコスト削減

■建設廃棄物の削減

現地での製作ヤードが不要で、基礎コンクリートや型枠材等の建設廃棄物の発生を削減



ループアーチ



残置型枠



レジン製品(係船柱・カーストップ)



2連FAボックスカルバート

JICA

普及・実証・ビジネス化事業 プレキャスト雨水貯留槽設置工事

対象国:インドネシア



製品据付状況





■ 水門・堰の製造及び施工並びに保守事業





水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の売上は、水門、除塵機、水管橋 等鋼構造物の製造、施工並びにそれらの保守によるものであります。

当連結会計年度においては、水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の売 上高は、33億99百万円(前年同期比0.0%増)となりました。セグメント利 益(営業利益)については、原価管理の徹底による外注費の削減を行った結 果、1億31百万円(前年同期比747.0%増)となりました。





15

セグメント利益

131

(単位:百万円)

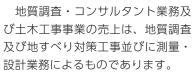
起伏ゲート

■ 地質調査・コンサルタント業務及び土木工事事業 ■



売上高 17億51百万円 (前年同期比5.1%増)

営業利益 1億57百万円 (前年同期比119.6%増)



当連結会計年度においては、高粗 利の工事が寄与したことにより、地



ノンフレーム工法

質調査・コンサルタント業務及び土木工事事業の売上高は17億 51百万円(前年同期比5.1%増)、セグメント利益(営業利益)は 1億57百万円(前年同期比119.6%増)となりました。

コンクリート構造物の点検・調査、補修工事事業



売上高 9億3百万円 (前年同期比28.9%増)

営業利益1億9百万円 (前年同期比68.9%増)

コンクリート構造物の点検・調査、補修 丁事事業の売上は、橋梁、トンネル等コン クリート構造物の点検・調査業務の請負、 補修丁事・補強設計業務の請負によるもの であります。

当連結会計年度においては、コンクリー ト構造物の点検・調査、補修工事事業の売



橋梁点検

上高は9億3百万円(前年同期比28.9%増)、セグメント利益(営業利益) は1億9百万円(前年同期比68.9%増)となりました。

情報機器の販売及び保守事業



売 上高 4億1百万円 (前年同期比16.5%增)

営業利益 24百万円 (前年同期比98.7%增)

情報機器の販売及び保守事業の売上は、主に金融機関向け業務処理支援 機器、貨幣処理機及びその周辺機器の販売並びにそれらの保守事業による ものであります。

当連結会計年度においては、情報機器の販売及び保守事業の売上高は4 億1百万円(前年同期比16.5%増)、セグメント利益(営業利益)は24 百万円(前年同期比98.7%増)となりました。

█ 不動産事業 ■



売上高 81 百万円 (前年同期比3.8%增)

営業利益 34百万円 (前年同期比15.3%增)

不動産事業の売上は、主に不動産の賃貸によるものであります。当連結 会計年度においては、不動産事業の売上高は81百万円(前年同期比3.8% 増)、セグメント利益(営業利益)は34百万円(前年同期比15.3%増)と なりました。

橋梁・高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置工事事業

橋梁・高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置工事事業は、主に橋梁、高架道路用伸縮装置の 製造・販売・設置工事を行っております。

2020年3月31日に、中外道路株式会社の発行済株式のすべてを取得し、子会社化いたしまし た。なお、みなし取得日を当連結会計年度末としているため、当連結会計年度は貸借対照表のみ を連結しております。



大型ジョイント

会社情報 (2020年6月26日現在)

ヤマウネットワーク

- ■本 社福岡
- 営業所福岡、久留米、北九州、筑豊、佐賀、長崎、大分、大分北、宮崎、延岡 高鍋、都城、鹿児島、鹿屋、川内、霧島、沖縄、広島、関東支社
- 工 場 福岡、北九州、佐賀、大分、川南、REC、高崎、鹿児島、長崎



本社·福岡工場















熊本工場 (協力工場)

■ 会社概要 ■

商		号	株式会社ヤマウ
本		社	福岡市早良区東入部五丁目15番7号
創		業	1953年10月
設		<u>17</u>	1958年(昭和33年)2月
資	本	金	8億円
代	表	者	代表取締役社長 小嶺 啓藏
従	業	員	228名 (2020年3月31日現在)

■ 会社役員 ■

代表取締役社長	小 嶺 啓 藏
取締役会長	権 藤 勇 夫
取締役副社長	有 田 徹 也
取締役専務執行役員	伊 佐 寿 起
社 外 取 締 役	櫻 井 文 夫
常勤監査役	隈 江 芳 博
社 外 監 査 役	右 田 國 博
社 外 監 査 役	本 木 正 之

■ 関係会社一覧 ■

㈱ヤマウトラスト	製造業務請負事業、鉄筋加工事業、コンクリート製品用型枠の製造・販売並びに改造・ 修理			
福岡プレコン販売㈱	コンクリート製品仕入販売事業			
メック機	コンクリート構造物の点検・調査業務、補修・補強設計業務、補修工事業務、補修・補 強材料販売業務			
光洋システム機器㈱	情報機器の販売及び保守事業			
大分フジ㈱	コンクリート製品製造・販売			
開成工業㈱	水門・堰の製造、施工及び保守			
㈱リペアエンジ	一般土木工事並びにコンクリート構造物等の補修・補強工事			
大 栄 開 発 ㈱	地質調査及び地すべり対策工事並びに測量・設計			
(株) 熊 本 ヤ マ ウ	コンクリート製品製造・販売			
中 外 道 路 ㈱	橋梁・高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置工事			